

2015年2月 定期報告と次月度以降の活動予定

活動日誌

2月	2日	くらし部会
	3日	宇都宮市食品安全講演会
	4日	全漁連青年女性交流大会第1回審査会・エコ農業シンポジウム
	6日	栃木県農政審議会・日本生協連大災害協議会
	10日	定例理事会
	11日	地方消費者グループ・フォーラム栃木実行委員会司会打合せ
	12日	栃木放送番組審議会
	14日	いわき市四倉中核工業団地内仮設住宅お茶会
	17日	ふれあいお茶会
	18日	労福協学習会
	19日	平成26年度関東ブロック地方消費者グループ・フォーラム
	20日	食肉公正取引協議会総会(理事会)・栃木県消費生活安定審議会
	23日	第6回『組合員理事・組織担当職員学習会』(くらしから考える生協の活動)
	24日	とちぎ消費者ネットワーク(世話人会)・報道代表者会懇談会
26日	全漁連青年女性交流大会審査会(26-27日)	
3月	5日	地方消費者グループ・フォーラム実行委員会
	7日	シンポジウム「共助社会の実現に向けて」
	9日	栃木県食育推進連絡会
	10日	第6回常務理事会・マーケティング協会理事会
	12日	栃木県労働者福祉センター理事会・放射能物質理解促進セミナー・栃木放送番組審議会
	13日	エコ農業推進会議
	16日	第7回『組合員理事・組織担当職員学習会』
	17日	ふれあいお茶会
	18日	とちぎ食の安全ネットワーク(全体会)「農政改革と水田農業の課題」
	19日	小山市総合政策懇話会
	20日	レジ袋削減推進協議会
	22日	復興まちづくりシンポジウム
	24日	とちぎ消費者ネットワーク(全体会)
27日	マーケティング協会総会	
31日	日本生協連連議案書検討会議	
4月	4日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	7日	常務理事会
	9日	栃木放送番組審議会
	14日	定例理事会
	16日	とちぎ食の安全ネットワーク(世話人)
	21日	ふれあいお茶会
	27日	第8回組合員理事・組織担当職員学習会
	28日	とちぎ消費者ネットワーク(幹事会)
	29日	福祉まつり(労福協)

県連活動

1. くらし部会 (地域生協組合員理事による部会活動)

2月定例会は、継続課題である介護保険制度改定に伴う地域支援事業への関わりなどを含めて次年度の活動計画について4月度定例会で検討することを決めました。

2. 『組合員理事・組織活動担当職員学習会』の開催

2月は、「くらしから考える生協の活動」として教育アドバイザーの毛利氏に生協のもっている役割や本質について学びました。次回は、「栃木でおきている様々な問題について」というテーマで、宇都宮市を中心に活動しているNPO法人宇都宮まちづくり市民工房の事務局長であり理事の安藤氏に学びます。

日	テーマ	講師	参加
9/22	「協同組合思想とその歴史」	栃木県生活協同組合連合会 竹内会長理事	36人
10/27	「今なぜJA改革なのか」	宇都宮大学 農学部 農業経済学科 秋山満教授	35人
12/1	「共有を深めるワークショップを学ぶ」	宇都宮大学 教育学部 陣内雄次教授	39人
12/15	「昨今の消費者問題と消費者市民社会の意義」	横浜国立大学 教育人間科学部 西村隆男教授	64人
1/20	「山谷の現状からみえてきた事 地域住民による生活困窮者の支援」	NPO法人自立センターふるさとの会 滝脇憲常務理事	40人
2/23	「くらしから考える生協の活動」	教育アドバイザー毛利 敬典氏	35人
3/16	「栃木県という地域が抱える様々な問題について」	NPO法人宇都宮まちづくり市民工房理事 安藤正知氏	

3. 報道代表者会との懇談

2月24日、生協への理解促進を図るために順延(12月予定)になっていました恒例の懇談会が開催されました。報道代表者からは9社の代表者が参加しました。交流の中では、生協の歴史の長さや事業高、活動に興味を示され交流が行われました。

ネットワーク活動

1. とちぎ食の安全ネットワーク

2月の定例会はありませんでした。次年度の「フォーラム」及び「地域フォーラム」について話し合い、活動方針について深めるため各参加団体の意見を次回4月世話人会で集約することになりました。

●(全体会を使った学習会)

毎回の全体会での学習会では、次回3月に「農政改革と水田農業の課題」と題して、宇都宮大学農学部教授 秋山氏にお願いしました。

日	テーマ	講師
5/15	輸入食品の監視体制 TPP 参加で大丈夫か	宇都宮大学 宇田靖名誉教授
9/25	動物医薬品と食の安全性に関わるセミナー 「動物医薬品の安全性確保について」 「県における動物医薬品の適正使用の啓発・指導の状況について」	内閣府食品安全委員会事務局関口秀人課長補佐 栃木県農政部畜産振興課小松亜弥子主査
12/11	ハサップ(HACCP)学習会 1) はじめてのHACCP講座 2) とちぎハサップについて 3) うつのみやハサップについて	宇都宮大学名誉教授 宇田靖氏 県保健福祉部生活衛生課副主幹 都丸美枝子氏 宇都宮市保健所生活衛生課総括主査 長谷充啓氏 宇都宮大学農学部教授 秋山満氏
3/18	「農政改革と水田農業の課題」	

2. とちぎ消費者ネットワーク

2月の幹事会では、とちぎ消費者カレッジの報告内容の確認と、「地方消費者グループ・フォーラム」栃木実行委員会の振り返り、次年度の活動計画について話し合いがされました。今年も過去最高の消費者被害額で進行しているなか、益々連携した啓発活動、教育活動が望まれると、話し合いました。

●(全体会での学習会の実施状況)

日	テーマ	講師
5/27	消費者問題はなぜおこる	山田幹事
7/22	消費者市民社会における栃木県内のパブリックコメント制度を検証する	高岡幹事
10/28	適格消費者団体について	服部幹事
1/27	高齢者の消費者トラブルに対処するために「周囲の見守りと気づきが重要」	葛谷幹事
3/24	リース被害について	小倉幹事

震災支援活動

- みやぎ生協から発信される「3.11を忘れない 被災地のいま」をホームページで連続掲載支援
⇒18回までアップされました。



●お茶会の実施

ふれあいお茶会 行政、NPO 法人ウィズ、県連会員などの協力のもと、社会福祉法人ふれあいコープ特養みどりの地域交流室を使って開催する福島からの避難者を対象にしたふれあいお茶会を定例で実施しています。(目的：①参加者同士をつなげる場、②参加者の想っていること困りごとを受けとめつなげる場、③おしゃべりを楽しんでいただく場：基本は毎月第三火曜日開催)

いわき市四倉仮設住宅お茶会 県連会員の協力のもといわき市四倉仮設住宅に暮らす避難者の方を対象にしたお茶会を仮設の集会所で開催します。(目的：ふれあいお茶会と同様・基本は毎月第二土曜日開催)

(実施報告)

ふれあいお茶会	いわき市四倉仮設住宅お茶会
2015年2月17日(火) 午前10時～12時 ●参加者13名 ●スタッフ13名(福島支援課1名・ウィズ1名・よつ葉生協2名・とちぎコープ7名・県連2名) ●場所：いわき市四倉仮設住宅集会所	2015年2月14日(土) 午前10時30分～14時 ●参加者6名 ●スタッフ12名(とちぎコープ元理事3名・よつ葉生協1名・とちぎコープ現理事職員5名、生協連3名) ●場所：いわき市四倉工業団地応急仮設住宅集会所
(スタッフ感想から) ① 初参加の方、エネルギーにお話ししていた。色々な情報を持っていて、発信もしていた。 ② 「ここに来るのが楽しみ」という声を聞けてよかった。 ③ 「家に閉じこもっているのはダメ、外へ出てしゃべる時間は大切」と何度も言っていた。特に女性は、しゃべることで癒されるのかもしれないと思った。 ④ この場をはじめた時の「喜んで頂けるような場に」という想いが受け止められていたと知った。いろいろな思いがあって複雑だと思うが…。 ⑤ 南相馬は合併してオダカ区となったが、内部ではいろいろな差別がある。帰りたいが井戸の線量も調べていないし、帰りたくても帰れない。長いこと空けていた家を、また住めるようにするのはすごく大変なこと。 ⑥ 福島での被害と言っても、浜通り中通り、住んでいる地域によってまちまち。私は津波被害だけだが、原発被害の人もいて、被害の中身が違うので、話が合う人と合わない人がいる。参加人数が減ってくると、話を共感しあえる人も減ってくる ⑦ 原発のある場所は、昔飛行場だった。時代の流れを感じる。原発事故後、防毒マスクの警察官を見て「ああ、もう終わりだ」と思った。 ⑧ 人数は少なくなったが、集まった人はそれぞれに想いを話し良い場であると感じる。このまま継続するには難しい面もあると思うが、なにかしらの話し合える場が必要だと感じる ⑨ 福島だからって、みんな同じ思いの人ばかりで	今回の手芸は、発泡スチロールを利用した「うさぎ雛」でした。ひな祭りに向けてかわいいうさぎの雛人形を2体作り、ぼんぼりや菱餅など小物もあるものでした。うさぎの着物に思い思いの図柄を選び、楽しそうに工作されていました。会話の中では、「節分が一人でさびしいと感じるが、一方で一人に慣れてしまったようにも思う」「仮設にいつまでも居られるわけではないので、自宅との行き来が増えている」「地区による行政の違いを感じるようになった」など仮設での暮らしから元の暮らしに戻るための苦労がうかがえました。 男性陣は、アンモナイトセンターに出かけました。ここは化石の出土する岩盤を建物で覆った場所ですが、被災者の方の元同僚の方が働いており、偶然出会い、会話が弾みました。 食事は、ちらし寿司、煮物、漬物の他、バレンタインデーにちなんでチョコレートやチョコ掛けイチゴなどをおいしくいただきました。また、被災者の方から、新鮮な「イカ刺し」の差し入れもありました。 被災された方々が元の生活に戻れるように、まだまだ支援が必要という実感を持ちました。 次回は4月4日に開催予定

はない。私たちも「忘れない」を基本に、どう寄り添うか、話に耳を傾け想いに寄り添うことを大切にしたい。この場があることで、毎回そういうことに改めて気づかせてもらえる。この場があることは大切と感じる。

- ⑩ 初めてこの場に来たときは、息子さんに黙って連れてこられて、とても不安だったと聞いた。でも、そういうことを話してもらえるようになったことがうれしい
- ⑪ 何度も「ありがとう」と言ってくれて、こちらが恐縮するくらいだが、元気をもらっている。
- ⑫ この場を楽しみにしていたと感じる。
- ⑬ 「この次の会は桜のころですね」とお話しをしたら、桜は苦手であると言われた。桜の時期は震災の時期でもあるし、いろいろなトラウマがある
- ⑭ 栃木と群馬の担当だが、どちらの県の避難者も、避難元の地元にはこだわらずに集まり仲が良い。避難元の地元民だけで県人会を立ち上げよう、という県もあるので、栃木や群馬はそうならないように気を付けていこうと思っている。地域に帰れない一つの理由として、病院がない、生活必需品が買える店がない、などがある。人が戻ってくるのを待とう、という人もいるし、まだ避難は続きそうなので、宜しくお願いします。
- ⑮ 「8月のこと」をどう伝えようかと、ずっと朝から考えていた。でも、切り出したことで、ざっくばらんな気持ちを聞けて、良かったのではないかと今は思っている。「こちらで土地を探している」ということを話してくれるなど、8月までのことを、タイミングよく聞けたかなと思う。次回から、もっと今後のくらしのことを聞ける場になるかもと思う。
- ⑯ 会長さんの「こういう場を作る体力はまだある」という声を聞いてありがたかった。私も場を持っている。人数は少なくなってきたが、来てくれる人を大切にして、中身を充実させたいと思っている。丁寧に場をもっていきたい。ここはスタッフも多く、組織の力を感じる。こんなに長く続けていただけてありがたい。
- ⑰ 高齢者の方の話す場がない。私も以前は、母がそんなことを言っているのを聞き、言いたいことを話しているのを聞いてなんて我ままなんだろう、と思っていたけれど、今は考えが変わった。言いたいことを話させてあげることが大切、そういう場が大事と思う。心にいろいろあっても、表現するのはほんの1割2割だと思う。話せる場があつてよかった、ありがたいと思う。
- ⑱ 今後のお茶会のあり方について…参加者の思いに添えるような方法、見直し必要。

次回は3月17日に開催予定

以上